

セーフコミュニティ年間活動報告書

本レポートは、毎年、認証された「月」の末日までに提出してください。

コミュニティ名	鹿児島市
認証年月日	2016年1月29日
報告提出日	2017年1月31日

〔報告書担当者〕※本報告書に関する問い合わせ等に対応できる方

よみがな 名前	ふじさき だいさく 藤崎 大作
所属（肩書き）	鹿児島市役所 市民局 危機管理部 安心安全課 セーフコミュニティ推進係（主任）
電話番号	099-216-1512
E-mailアドレス	an-safe@city.kagoshima.lg.jp

指標1 横断的な組織による協働・連携

1-1. 過去1年に、セーフコミュニティ推進協議会等のSCの方向性を決定する組織および対策委員会等の重点課題に対する取組を推進する組織において大きな変更がありましたか？

はい いいえ

※「はい」と答えた場合は、変更点について詳細を記載してください。

例) これまで主な協働関係にあった方（組織）で担当でなくなった方や関係を解消した組織、あるいは新たに推進組織に加わった方（組織）など

<p>■セーフコミュニティ推進協議会委員変更</p> <p>任期満了（～H28.11.13）に伴い、全ての年齢、性別、あらゆる環境下での事故やけがを予防する取組をカバーするとともに、重点7分野における取組の全市的な展開に向け、7分野関係団体を充実させる委員を選任した。</p> <p>（主な変更点）</p> <p>○取組分野関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各対策委員会委員長に統一 ・地域拡大が必要な5分野については、委員長以外に1団体選任 <p>○SC推進に関する関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる環境下での事故やけがを予防する取組をカバーする関係団体を選任
--

■外傷サーベイランス委員会委員変更

任期満了（～H28.11.13）に伴い、現行の委員を基本とし、精密な外傷データの収集・分析を図り、取組の評価・検証をより効果的に進めるため、交通統計を所管する委員を追加した。

（主な変更点）

- ・行政関係者：鹿児島県警察本部交通部交通企画課長を新たに追加。

■各対策委員会委員変更

【防災・災害対策分野】

桜島全島での取組に拡大するため、従来参加していた地区以外の住民代表など、島内全域をカバーできるよう、H28.7.1から新たに7人を委員に追加した。

- ・桜島住民：校区コミュニティ協議会長など 4人
- ・防災機関：鹿児島海上保安部警備救難課長・消防団副団長 2人
- ・学識者：鹿児島大学地域防災教育研究センター 1人
- ・その他：市民局危機管理部危機管理課長を事務局へ

1-2. 推進組織メンバーリストを添付してください・・・・・・・・・・・・・・・・〔添付1〕

1-3. 推進組織（SC推進協議会及び外傷サーベイランス委員会）は、この1年間で何回開催しましたか？

①会議名・開催日・議題について下記に示してください

会議名	開催日	主な議題
SC推進協議会、 外傷サーベイラ ンス委員会合同 会議	2016年3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度の実績について ・現地審査における審査員からの助言について ・取組の全市展開等について ・28年度事故やけがに関するアンケート調査概要について
外傷サーベイラ ンス委員会	2016年5月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度セーフコミュニティの取組について ・平成28年度事故やけがに関するアンケート調査について ・救急搬送データ（運動競技）、医療データについて
SC推進協議会	2016年5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度セーフコミュニティの取組について ・平成28年度事故やけがに関するアンケート調査について ・救急搬送データ（運動競技）、医療データについて ・セーフコミュニティ推進フォーラムについて
外傷サーベイラ ンス委員会	2016年11月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度事故やけがに関するアンケート調査について ・救急搬送データについて ・医療データについて

外傷サーベイランス委員会	2017年1月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・年間レポートについて ・平成28年度事故やけがに関するアンケート調査について ・救急搬送データについて
S C 推進協議会	2017年1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・年間レポートについて ・28年度のセーフコミュニティの取組状況について

②各会議の「次第」「出席者リスト」「議事録」を添付してください。 [添付2]

1-4. 対策委員会委員のリストを添付してください。 [添付3]

1-5. 過去1年間で何回対策委員会を開催しましたか？会議名・開催日・議題について示してください。

①会議名・開催日・議題について下記に示してください

対策委員会名	開催日	主な議題
例) 高齢者の安全	偶数月の第二月曜	第1回：〇〇〇について 第2回：×××について
交通安全	2016年3月3日	平成27年度 第6回： <ul style="list-style-type: none"> ・セーフコミュニティ国際認証取得について ・取組の全市展開について ・交通安全等の活動が活発な団体・地域等について
	2016年5月13日	平成28年度 第1回： <ul style="list-style-type: none"> ・取組の全市的な展開について ・事故やけがに関するアンケート調査について ・セーフコミュニティ推進フォーラムについて
	2016年9月29日	平成28年度 第2回： <ul style="list-style-type: none"> ・取組の全市的な展開について ・各団体等における交通安全の取組について ・取組内容の統合について
	2016年11月30日	平成28年度 第3回： <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標の変更について ・事故やけがに関するアンケート調査中間報告について ・セーフコミュニティ年間活動報告書について

学校の安全	2016年2月2日	平成27年度 第6回： ・鹿児島市セーフコミュニティ認証式概要について ・意識・行動調査結果について ・再認証に向けた今度の見通しについて
	2016年7月4日	平成28年度 第1回： ・取組状況調査の結果について（平成28年2月実施分） ・部活動でけがをしないための認知度・実践度調査について ・平成28年度の活動計画について
	2016年12月1日	平成28年度 第2回： ・意識・行動調査の結果について（平成28年7月実施分） ・年間レポートについて ・第2回SCフォーラムについて
	2017年1月31日	平成28年度 第3回： ・部活動でけがをしないための認知度・実践度調査結果について ・取組の全市展開について
子どもの安全	2016年2月10日	平成27年度 第7回： ・平成28年度 of 取組みについて
	2016年5月2日 （文書報告）	平成28年度 第1回： ・事故やけがに関するアンケート調査について
	2016年11月29日	平成28年度 第2回 ・全市展開等について ・セーフコミュニティ年間活動報告書（年間レポート）について
高齢者の安全	2016年2月15日	平成27年度 第6回： ・転倒予防パンフレットについて ・モデル地区等の取組みの全市展開について
	2016年5月16日	平成28年度 第1回： ・転倒予防パンフレットの作成・配付について ・全市展開に向けた平成28年度の取組計画について ・事故やけがに関するアンケート調査について
	2016年8月25日	平成28年度 第2回： ・全市展開に向けた取組（候補地区、取組内容など）について ・7分野での取組以外の本市におけるセーフコミュニティの取組について ・成果指標に係るアンケート調査項目について

	2016年11月28日	平成28年度 第3回： <ul style="list-style-type: none"> ・不慮の窒息の原因分析について ・セーフコミュニティ年間活動報告書（年間レポート）について
DV防止	2016年3月25日	平成27年度 第5回： <ul style="list-style-type: none"> ・各機関・団体における平成28年度のDV防止に関する取組及び連携について ・事故やけがに関するアンケート調査について
	2016年4月19日	平成28年度 第1回： <ul style="list-style-type: none"> ・事故やけがに関するアンケート調査について ・相談に関するアンケート内容の検討について ・男性相談カードの設置場所の検討について
	2016年10月7日	平成28年度 第2回： <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市DV対策基本計画の見直しについて ・相談に関するアンケート内容の検討について ・男性相談カードの設置場所の検討について
自殺予防	2016年2月12日	平成27年度 第5回： <ul style="list-style-type: none"> ・認証式・現地審査の結果について ・今後の取組について ・平成28年度の予定について
	2016年5月30日	平成28年度 第1回： <ul style="list-style-type: none"> ・事故やけがに関するアンケート調査に係る調査事項について ・自殺予防対策委員会連携相談会に向けて ・各機関の取組について（27年度実績・28年度計画）
	2016年7月11日	平成28年度 第2回： <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年自殺統計報告 ・相談窓口案内カードの内容検討について ・自殺予防週間の取組について（自殺予防対策委員会連携相談会・その他）
	2016年11月25日	平成28年度 第3回： <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防対策委員会連携相談会実施結果、今後の実施に向けて ・セーフコミュニティ年間活動報告書（年間レポート）について ・事故やけがに関するアンケート調査結果について

防災・災害対策	2016年2月1日	平成27年度 第4回： ・認証式結果報告 ・桜島火山爆発総合防災訓練結果報告 ・桜島火山災害対策委員会の取組 ・モデル地区取組の全島への拡大
	2016年5月16日	平成28年度 第1回： ・防災・災害対策委員会における今後の取組について ・大噴火に備えた避難体制に関する住民意向調査（アンケート）について ・鹿児島市における桜島火山災害対策の検討状況について（鹿児島市桜島火山災害対策委員会・分科会の動き）
	2016年7月4日	平成28年度 第2回： ・モデル地区の取組の全島への拡大について（桜島大規模噴火時の全島避難に関する調査等について） ・鹿児島市における桜島火山災害対策の検討状況について（鹿児島市桜島火山災害対策委員会・分科会の動き）

②各会議の「次第」「出席者リスト」「議事録」を添付してください・・・・・・〔添付4〕

1-6. 過去1年間の財政マネジメントにおいて変化がありましたか？（資金調達方法など）

はい いいえ

※「はい」の場合、詳細について記載してください。

1-7. 次の1年間の財政計画について述べてください。

セーフコミュニティ推進のための予算などについては、議会に諮り、市で確保していく。

1-8. 過去1年間で（対策委員会等の事務局ではなく、SC活動全体を担う）事務局機能において変更がありましたか？（事務局スタッフの変更や規模の変更など）

はい いいえ

※「はい」の場合、詳細について記載してください。

2016年4月から鹿児島市役所市民局危機管理部安心安全課に新たに「セーフコミュニティ推進係」を設置し、推進体制を強化した。

指標2 両性、全年齢、さまざまな環境をカバーする長期・継続的な取組

2-1. 過去1年間で、全ての住民（全年齢・両性別）あらゆる環境や状況をカバーするための取組において変更がありましたか？（報告書に記載した取組において変更や追加等がありましたか）

はい いいえ

※「はい」と答えた場合、それは下記のマトリックスのどの領域ですか？

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全	例) 〇〇プログラム			
	学校の安全	SCガイドラインにある分類（認証申請書掲載）を左記分類ごとに整理し直した。〔添付5〕参照			
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全				
	交通安全				
	自然災害				
意図的要因	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

変更した内容について説明してください。

例) ① 就学前の子どもに対して新たに「〇〇プログラム」を開始した。

■分類変更

SCガイドラインで示されている分類（認証申請書掲載）を上記分類ごとに整理し直した。

(主な整理点)

子どもの安全、高齢者の安全 ⇒ 家庭の安全へ

病院の安全、水の安全 ⇒ 公共の安全へ

2-2. 過去1年間で重点的な領域・課題（項目）・対策委員会等において変更がありましたか？

はい いいえ

※「はい」の場合、詳細について記載してください。

例) 重点項目、政策、政治、個人、資金などにおける変化及びそれによってどのように協働や継続性、成果などに成果があったのか、など

2-3. その他、コミュニティの特性を生かした取組について、その進展について記載してください。

例) モデル地区の取組など

【ハード面での交通安全対策】

2015年度整備状況（鹿児島市関係分）

※県道は道路維持関係分、市道は交通安全施設整備事業

■歩行者の安全

- ・歩道整備等…歩行者の多い道路や、通学路等において歩道の設置等を行い、歩行者の安全を確保する。

（国道）440m

（県道）168m

（市道）886.5m

■自動車の安全

- ・交差点改良…自動車交通量の多い交差点において、右折レーン等を設置して自動車交通の円滑化を図る。

（国道）1箇所

（県道）1箇所

（市道）3箇所

- ・視距改良…自動車が通行する上で危険な急カーブ等を、見通しのよい安全な道路へ改良する。

（県道）72m

（市道）767.2m

- ・路肩改良…自動車が通行する際に、崩落等の危険がある路肩を改良する。

（市道）89.0m

指標3 ハイリスク集団や環境を対象とする取組

3-1. 過去1年間で、ハイリスクの集団・環境・状況に変更等がありましたか？

はい いいえ

※「はい」の場合、具体的にその詳細を記載してください。

--

3-2. 過去1年間において、各ハイリスクグループや環境に対してどのような取組を展開しましたか？

その内容と取り組みの成果について記載してください。

※アルファベットは10ページ以降の個々の取組に対応

ハイリスクグループ	取組内容	成果
①自殺リスクの高い50・60歳代の人	AE 自殺予防の普及啓発（広報・周知やメンタルヘルス講演会等の実施） AF 50～69歳の周囲の人への支援（ゲートキーパー養成講座の開催） AG 相談しやすい場の設定 AH 相談窓口の周知	実績については、32ページ以降の個々の取組を参照
②虐待を受ける子ども	T 子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 U 児童虐待予防の学習会	
③転倒によりけがをしやすい高齢者	V・W 転倒予防のための料理教室・講習会、転倒予防教室の実施 X 住環境の改善	
④虐待（DV：ドメスティック・バイオレンス）を受ける女性	AA・AC・AD DV防止のための情報提供及び啓発（講座や研修会等の実施） AB 相談員の資質向上（DV被害者支援啓発講座等の開催）	
⑤夜間・歩行中の高齢者	C 参加・体験型の交通安全教室等の開催 D 高齢者の世帯訪問による交通安全教育 E 夜光反射材の着用啓発	
⑥ハイリスク環境の近くで生活する人	AI 住民の避難状況の把握（住民一覧表の作成） AJ 避難行動要支援者の避難体制の確立 AK 避難訓練の充実強化	
ハイリスク環境	取組内容	成果
①火山活動による災害が予測される地域	AI 住民の避難状況の把握（住民一覧表の作成） AJ 避難行動要支援者の避難体制の確立 AK 避難訓練の充実強化	

指標4 根拠に基づいた取組

4-1. 対策委員会の取組等根拠に基づいた取組の推進状況について記載してください

〔対策委員会名：交通安全〕

目的：交通事故の減少

具体的な目標：自動車による交通事故減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故死傷者は自動車等乗車中が多い。（課題1） ・ちょっとした不注意での交通事故が多い。（課題2） ・後部座席のシートベルト着用率が低い。（課題3）
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
<p>A シートベルト着用の啓発活動（全席シートベルトの着用）</p>	<p>①実施者 地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 運転者</p> <p>③実施内容 地域住民や関係団体が主体となり、街頭キャンペーンや交通安全教室などでシートベルトの重要性や交通ルール・マナーを周知し、全席シートベルト着用などの啓発活動を行う。 実施に際しては、交通量の多い県道にて、直接、運転者へ啓発活動を行うなど、対象者に合った効果的な実施方法を検討し、実施する。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
<p>B 企業等への交通安全講習等</p>	<p>①実施者 地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 運転者</p> <p>③実施内容 地域住民や関係団体が主体となり、自動車を運転する機会の多い企業等の運転者（従業員等）を対象とした交通安全教室を開催し、地域の運転マナーの向上を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

具体的な目標：高齢者の交通事故減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故死者は歩行中の高齢者が多い。（課題4） ・交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷した歩行者は高齢者が4割を占める。（課題5） ・歩行中の交通事故死傷者は夜間が4割を占め、うち高齢者が多く、その大部分が夜光反射材を着用していない。（課題6）
対策委員会での主観的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢運転者は、自身の身体能力や認知能力の低下を認識できていないかもしれない。
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
<p>C 参加・体験型の交通安全教室等</p> <p>※「高齢運転者への安全運転講習等」を統合</p>	<p>①実施者</p> <p>地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など</p> <p>②対象</p> <p>高齢者</p> <p>③実施内容</p> <p>地域住民や関係団体が主体となり、高齢者を対象とした交通安全教室を開催し、ドライビングシミュレータや歩行シミュレータの活用など、実際に参加・体験しながら交通安全について学ぶことができる機会を提供する。</p> <p>実施に際しては、これまでも行っていた防犯教室や高齢者の活動の場である「お達者クラブ」などを積極的に活用し、実施回数の増加を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点</p> <p>高齢運転者への安全運転講習等と参加・体験型の交通安全教室等（歩行中の高齢者対象）を統合した。</p>
<p>D 高齢者の世帯訪問による交通安全教育</p>	<p>①実施者</p> <p>地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会 など</p> <p>②対象</p> <p>高齢者</p> <p>③実施内容</p> <p>交通安全教室等に参加することのない高齢者が多いことから、地域住民や関係団体が主体となり、直接、高齢者世帯を訪問し、交通安全教育を行うことで、交通ルール・マナーを広く周知する。</p> <p>実施に際しては、県交通安全協会や鹿児島県警察が実施する既存の訪問事業を活用するなど、あらゆる訪問の機会を捉えた、より効果的な交通安全教育の方法を検討する。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

E 夜光反射材の着用啓発	<p>①実施者 地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 高齢者</p> <p>③実施内容 地域住民や関係団体が主体となり、街頭キャンペーンや交通安全教室などで夜光反射材の重要性を周知し、着用啓発活動を行う。 実施に際しては、交通量の多い県道での啓発活動や、交通安全教室での夜光反射材の効用体験等を行う。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
--------------	--

具体的な目標：子ども（中学生以下）の交通事故減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は自転車乗車中の交通事故死傷者が多い。（課題7） ・子どもは交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷することが多い。（課題8） ・保護者の多くは子どもの交通事故を懸念している。（課題9）
対策委員会での主観的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと保護者等と一緒に交通ルールを学ぶ機会があるとよい。
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
F 保護者等も含めた参加体験型の交通安全教育等	<p>①実施者 地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 ・歩行中の未就学児、小学生</p> <p>③実施内容 地域住民や関係団体が主体となり、子どもやその保護者等を対象とした交通安全教室を開催し、交通ルール・マナーの学習や横断実技など、実際に参加・体験しながら交通安全について学ぶことができる機会を提供する。 実施に際しては、これまでも行っていた防犯教室や学校行事の場を積極的に活用し、実施回数の増加を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

<p>G 保護者等も含めた参加体験型の交通安全教育等</p>	<p>①実施者 地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 ・自転車乗車中の小学生、中学生</p> <p>③実施内容 地域住民や関係団体が主体となり、子どもやその保護者等を対象とした交通安全教室を開催し、交通ルール・マナーの学習や自転車実技など、実際に参加・体験しながら交通安全について学ぶことができる機会を提供する。 実施に際しては、これまでも行っていた防犯教室や学校行事の場を積極的に活用し、実施回数の増加を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
--------------------------------	--

<p>モデル地区からの提案</p>	<p>・今後の取り組みを有効に展開するため、地域の交通危険箇所を把握する必要がある。</p>
<p>取組</p>	<p>取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）</p>
<p>H 交通安全マップの作成</p>	<p>①実施者 地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、鹿児島市など</p> <p>②対象 ・モデル地区等住民</p> <p>③実施内容 地域住民が主体となり、地域の交通事故発生箇所等を調査・分析のうえ、交通安全マップを作成し、各世帯等へ配布することで地域全体の交通安全に関する意識の向上を図る。 また、マップ作成に伴い明らかとなった交通危険箇所に対し、現場診断を行い、ハード整備等の改善を検討する。 このほか、新たに見えてきた課題や気づき（幹線道路沿いに事故が集中し、若年者の運転者が事故に遭っている等）を今後の取り組みにフィードバックする。</p> <p>④過去一年間の改善点 県交通安全協会地区協会が作成する各校区の交通事故発生箇所一覧の提供により、交通安全マップ作成の事務負担が軽減された。</p>

〔対策委員会名：学校の安全〕

目的：児童生徒の事故の減少

具体的な目標：市立小中学校の校内等でのけがの減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩時間のけがが多い。（小中学生） 部活動中のけがが多い。（中学生）（課題1） ・ 校庭・運動場などでのけがが多い。（課題2） ・ 骨折、挫傷・打撲、捻挫などのけがが多い。（課題3） ・ 手や足のけがが多い。（課題4） ・ 転倒などが原因のけがが多い。（課題5） ・ 中学校の部活動では、攻守混合型のスポーツでのけがが多く、その原因は人との接触などが多い。（課題6） ・ 安全な行動について理解しているが、行動が伴っていない。（課題7）
対策委員会での主観的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで主体的にけが予防に取り組めば、けがの発生件数は減少するのではないか。
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
I 小中学生が休憩時間（けがが多く発生している時間）にけが防止を呼びかける「校内パトロール」	<p>①実施者 「校内パトロール」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p> <p>②対象 休憩時間に校内で活動している小中学生</p> <p>③実施内容 危険箇所マップによりけがの多い場所を確認し、休憩時間にけがが多く発生している場所をパトロールし、けがを起こさない行動の仕方などを呼びかける。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
J 小中学生が校庭・運動場など、けがの多い場所を示し、けが防止を働きかける「危険箇所マップづくり」	<p>①実施者 「危険箇所マップづくり」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p> <p>②対象 校内で活動している小中学生</p> <p>③実施内容 小中学生が保健室来室者のけがの状況について調べ、けがが発生した場所にシールをはるなどしてけがの多い場所を把握し、けがの発生場所を周知するとともに、けが防止に関する取り組みに役立てる。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

<p>K 小中学生が骨折など、けがの多い種類を示し、けが防止を働きかける 「『危険』などの表示」</p>	<p>①実施者 「『危険』などの表示」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p> <p>②対象 校内で活動している小中学生</p> <p>③実施内容 児童生徒が危険箇所マップでけがが多く発生している場所を確認し、骨折などのけがが起こらないようにするためにけがの多い種類に関する内容を示した表示を行い、けが防止を働きかける。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
<p>L 小中学生が手や足（けがの多い部位）を示し、けが防止を働きかける 「ポスターの掲示」</p>	<p>①実施者 「ポスターの掲示」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p> <p>②対象 校内で活動している小中学生</p> <p>③実施内容 小中学生が危険箇所マップでけがが多く発生している場所を確認し、手や足のけがが起こらないようにするためにけがの多い部位に関する内容を示した表示を行い、けが防止を働きかける。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
<p>M 小中学生が転倒など、けがの多い原因を説明し、けが防止を呼びかける 「集会活動での呼びかけ」</p>	<p>①実施者 「集会活動での呼びかけ」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p> <p>②対象 校内で活動している小中学生</p> <p>③実施内容 小中学生が転倒など、けがの多い原因に関する内容を集会活動で説明し、転倒などのけがが起こらないようにするために全校小中学生に呼びかける。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

<p>N 部活動中のけがを防止するために、部位を伸ばすストレッチ運動や柔軟運動などを取り入れた「入念な準備運動」</p>	<p>①実施者 「入念な準備運動」に取り組んでいる中学校における運動部活動に参加している中学生</p> <p>②対象 運動部活動に参加している中学生</p> <p>③実施内容 中学生が部位を伸ばすストレッチ運動や柔軟運動などを実施し、部活動中のけがの防止に努める。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
<p>O 部活中のけがを防止するために、けがの原因や今後の取組などについて話し合う「キャプテン会議の開催」</p>	<p>①実施者 「キャプテン会議の開催」に取り組んでいる中学校における運動部活動に参加している中学生</p> <p>②対象 運動部活動に参加している中学生</p> <p>③実施内容 各運動部活動のキャプテンが、けがの原因や今後の取組などについて話し合い、その内容を各部活動の部員に周知しけがの防止に関する取り組みに役立てる。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

〔対策委員会名：子どもの安全〕

目的：子どもの身体と心の安心・安全を守る

具体的な目標：家庭内等での事故・けがの減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・0～6歳の子どものけがは、一般負傷が最も多い。（課題1） ・けがの発生場所は、自宅、幼稚園等の順に多い。（課題2） ・子どものけがのうち、74%が頭部・顔部を受傷している。（課題3）
対策委員会での主観的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の体力・運動能力の向上を目的とした活動を推進することで、子どもの事故・けがを防止することにもつながる。
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
P 家庭内等での事故・けがに関する情報の発信	<p>①実施者 幼稚園、保育園、ふれあい・子育てサロン、母親クラブ、鹿児島市 など</p> <p>②対象 幼稚園、保育園、ふれあい・子育てサロン、母親クラブを利用している保護者</p> <p>③実施内容 保護者に対し家庭内での安全対策などを、アンケートや園便り等で情報発信を行う。 また、家庭内の危険箇所マップをアンケート結果等を基に作成する。</p> <p>④過去一年間の改善点 作成した危険箇所マップを鹿児島市ホームページ・子育てガイドに掲載し、広く活用できるようにした。</p>
Q 児童への安全教育	<p>①実施者 幼稚園、保育園、鹿児島市</p> <p>②対象 幼稚園、保育園の児童</p> <p>③実施内容 職員が児童に遊具の使い方や室内での過ごし方などの指導を行う。 特に、年長児には年下の児童にも注意することができるよう指導する。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
R 職員による室内、園庭等の安全点検	<p>①実施者 幼稚園、保育園</p> <p>②対象 遊具、備品等</p> <p>③実施内容 職員が、遊具等の安全点検を実施するとともに、危険な箇所を認識し、改善や注意喚起を行う。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

<p>S 体力・運動能力の向上 を目的とした活動</p>	<p>①実施者 幼稚園、保育園</p> <p>②対象 幼稚園、保育園の児童</p> <p>③実施内容 幼稚園や保育園での生活の中に、体力や運動能力の向上を目的とした活動を一定時間（目安：30分）取り入れることにより、運動を調整する能力を高め、けがの予防につなげる。</p> <p>④過去一年間の改善点 「体力向上プログラム」を取り組みやすい内容に変更した。</p>
----------------------------------	--

具体的な目標：子育て中の親への支援

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被虐待児のうち、0～6歳が過半数を占めている。（課題4） ・虐待者の約58%が実母である。（課題5）
<p>対策委員会での 主観的な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待になってからではなく、一次予防が重要であることから、職員への研修も必要である。
<p>取組</p>	<p>取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）</p>
<p>T 子育てに悩みがある 保護者の相談及び子育て の体験談の情報発信</p>	<p>①実施者 幼稚園、保育園、ふれあい・子育てサロン、母親クラブ、子どもの安全対策委員会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 幼稚園、保育園、ふれあい・子育てサロン、母親クラブを利用している保護者</p> <p>③実施内容 保護者に対する「事故・けが」のアンケートと同時に、子育てなどに悩みがある場合は、記名していただき、対策委員が連携して相談を実施するとともに、保護者がこれまで体験してきた、子育て中の悩みや解決策を募集し共有することで、同じような悩みを抱えた方が、「自分だけが悩んでいるわけではないんだ。」と思えるよう心のケアに取り組む。</p> <p>④過去一年間の改善点 作成した子育て体験談事例集を鹿児島市ホームページに掲載し、広く活用できるようにした。</p>

U 児童虐待予防の学習会	<p>①実施者 幼稚園、保育園、鹿児島子どもの虐待問題研究会、鹿児島市</p> <p>②対象 幼稚園、保育園の教諭・保育士</p> <p>③実施内容 対策委員などが講師となり、児童虐待に関する知識を深め、子どもからのサインを見逃さないよう、早期発見の方法を身に付ける。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>
--------------	--

[対策委員会名：高齢者の安全]

目的：高齢者の外傷の減少

具体的な目標：高齢者の転倒による外傷の減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の死亡原因は転倒・転落が多い。（課題1） ・ 高齢者の一般負傷による救急搬送は転倒・転落が圧倒的に多い。（課題2） ・ 事故やけがは、自宅や歩道・道路等身近な場所が多く、家事（日常の買物含む）や散歩時が多い。（課題3） ・ 転倒に対する不安は高齢になるほど大きく、要介護要支援認定者も年々増えている。（課題4、5）
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
V 転倒予防のための料理教室・講習会の実施	<p>①実施者 町内会、市食生活改善推進員連絡協議会 など</p> <p>②対象 高齢者又は家族</p> <p>③実施内容 転倒しないためには丈夫な体づくりが大事で、高齢になると少食となり、たん白質やミネラルの吸収力も下がり気づくと栄養不足となりがちである。今までも料理教室を開催しているが、単なる料理教室ではなく、食生活の大切さと体にいい献立を学んで、健康的な生活を維持するための食生活の意識向上を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点 取組の評価・検証のため、取組による意識や行動の変化を確認できるようアンケート調査票の項目を見直した。</p>

W 転倒予防教室の実施	<p>①実施者 町内会、市健康づくり推進員協議会 など</p> <p>②対象 比較的元気な高齢者</p> <p>③実施内容 転倒しないための予防策として、加齢で生じる身体機能の低下を予防するためのトレーニングや日常生活の心がけを学ぶ。この教室は、老人クラブ加入者のみを対象とした教室であったが、誰でも気軽に参加できるように対象者を拡充し、簡単で取り組みやすいらくらく体操を実施するなど、一人でも安全にできる運動習慣を身につける。</p> <p>④過去一年間の改善点 取組の評価・検証のため、取組による意識や行動の変化を確認できるようアンケート調査票の項目を見直した。</p>
X 住環境の改善	<p>①実施者 高齢者の安全対策委員会、町内会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 高齢者又は家族</p> <p>③実施内容 住居の段差解消、廊下や階段に手すりをつける等の改修をすることで、転ばないための住環境づくりを推進する。 寝たきりにならず、元気に高齢期をすごすため、「らくらく体操」や「住まいの点検」などを、ご家族や周囲の方々と一緒に行っていただくためのパンフレットを作成する。</p> <p>④過去一年間の改善点 転倒予防のためのパンフレットを、モデル地区の町内会全世帯に配布した。</p>

目的：高齢者虐待の減少

具体的な目標：虐待や認知症への啓発・理解の促進

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後認知症を患う高齢者は増えると予想されている。（課題6） ・被虐待者の45.1%は認知症を患っている。（課題7） ・認知症に対する不安や心配を持っている人が多い。（課題8）
対策委員会での主観的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を正しく知り、理解することで認知症の人の気持ちを理解することが大事である。
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
Y 認知症に関する意識啓発	<p>①実施者 町内会、認知症の人と家族の会鹿児島県支部 など</p> <p>②対象 地域住民、職域、学校、高齢者又はその家族</p> <p>③実施内容 認知症サポーター養成講座等で認知症がどういうものであるのかを知り、認知症のケアや認知症の人の気持ちを理解する。 町内会の福祉部長を中心に開催し、家族や地域で認知症の人への接し方、相手の気持ちを大事にすることを学ぶ。</p> <p>④過去一年間の改善点 取組の評価・検証のため、取組による意識や行動の変化を確認できるようアンケート調査票の項目を見直した。</p>
Z 高齢者世帯への見守り活動	<p>①実施者 町内会、鹿児島市 など</p> <p>②対象 認知症高齢者、地域住民</p> <p>③実施内容 住民の実態把握のため、班長等が各家庭を訪問し、家庭構成等聴取したことを地図に書き込み、一覧にまとめた福祉マップを作成（更新）する。 このマップにより高齢者世帯の見守り活動を行い、今後、徘徊模擬訓練の開催を検討する。 認知症の予防・理解のためのパンフレットを配布し、住民の意識の向上を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

〔対策委員会名：DV防止〕

目的：DVの防止

具体的な目標：DVの正しい理解と気づきの促進

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・男性に比べて女性の方がDV被害にあう割合が高く、女性のDV被害者からの相談件数は増加傾向にある。（課題1） ・誰にも（どこにも）相談しない人が多く、DVへの理解や相談先情報を充実させる必要がある。（課題2）
対策委員会での主観的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者救済も重要だが、予防がテーマであれば、若者やDVの加害・被害に気付いていない人への啓発が最重要。
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
AA DV防止のための情報提供及び啓発	<p>①実施者 県母子生活支援施設協議会、県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆びあ☆かごしま、民間支援団体、県警察、大学生ボランティア、鹿児島県、鹿児島市</p> <p>②対象 DV被害者・加害者を含めた市民全般</p> <p>③実施内容 鹿児島市が作成したカードサイズDVリーフレットの配布や、鹿児島県や鹿児島市が主催するパープルリボンキャンペーン期間中の街頭啓発活動等を通して、DV防止のための情報提供、啓発を行う。</p> <p>④過去一年間の改善点 カードサイズDVリーフレットや男性相談カードの配布箇所及びパープルリボン街頭啓発活動の実施場所について、より人が集まるイオンモールかごしまなどの商業施設へ見直しを行った。</p>
AB相談員の資質向上	<p>①実施者 市医師会、ピア☆びあ☆かごしま、民間支援団体、県母子生活支援施設協議会、県警察、鹿児島県、鹿児島市等</p> <p>②対象 DVの被害者支援に携わる者</p> <p>③実施内容 鹿児島県や鹿児島市がDVに係る相談業務研修会等を開催し、関係団体の相談員の資質向上を図る。 今後、相談員の自己評価アンケート及び相談者の満足度アンケートの実施について検討する。</p> <p>④過去一年間の改善点</p>

具体的な目標：若年者に対する予防啓発の充実

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・DVは若者の間でも起きている。（課題3） ・若者の予防学習経験が少ない。（課題4） ・誰にも（どこにも）相談しない人が多く、DVへの理解や相談先情報を充実させる必要がある。（課題5）
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
AC ・DV防止のための情報提供及び啓発 ・若者による若者のための暴力未然防止活動	①実施者 県母子生活支援施設協議会、県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆びあ☆かごしま、民間支援団体、鹿児島県、鹿児島市等 ②対象 生徒・学生（中学生・高校生・大学生・専門学生） ③実施内容 鹿児島市やDV防止対策委員会の関係団体が、デートDV講演会を開催するなどの啓発活動を行う。 実施に際しては、デートDV講演会の実施校数の増を図るほか、鹿児島市とピア☆びあ☆かごしまが共同して、新たに中・高校生等を対象に大学生等の若者がデートDVに関するワークショップを行う「若者による若者のためのデートDV講座」を実施する。 ④過去一年間の改善点
AD DV防止のための情報提供及び啓発	①実施者 県母子生活支援施設協議会、県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆びあ☆かごしま、民間支援団体、県警察、大学生ボランティア、鹿児島県、鹿児島市等 ②対象 10～20歳代の社会人 ③実施内容 鹿児島市が作成したカードサイズDVリーフレットの配布や、鹿児島県や鹿児島市が主催するパープルリボンキャンペーン期間中の街頭啓発活動等を通して、DV防止のための情報提供、啓発を行う。 ④過去一年間の改善点 カードサイズDVリーフレットや男性相談カードの配布箇所及びパープルリボン街頭啓発活動の実施場所について、より人が集まるイオンモールかごしまなどの商業施設へ見直しを行った。

〔対策委員会名：自殺予防〕

目的：自殺者数の減少

具体的な目標：中高年（50～69歳）の自殺者数の減少

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・50・60歳代の自殺の原因では、「健康問題」「経済・生活問題」が多く、「経済・生活問題」の内訳をみると、「負債（多重債務）」が多い。（課題1） ・自殺を考えた時、相談していない人が多い。（課題2） ・自殺に関する相談窓口を知らない人が多い。（課題3） ・自殺の現状を知っている人が少ない。（課題4）
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
AE 自殺予防の普及啓発	<p>①実施者 市医師会、県看護協会、鹿児島労働基準監督署、鹿児島産業保健総合支援センター、県精神保健福祉士協会、県臨床心理士会、鹿児島県、鹿児島市など</p> <p>②対象 中高年（50～69歳）とその周囲の人</p> <p>③実施内容 自殺予防対策委員会に属する関係機関が講演会等を開催し、本人やその周囲の人が精神疾患や自殺予防についての知識やその対応を学ぶことができる機会を提供する。自殺予防週間や自殺対策強化月間を重点的に、普及啓発のための広報やチラシの配布等を実施する。</p> <p>④過去一年間の改善点 健康ニュースや市民のひろば等で普及啓発のための広報を行い、桜島フェリー・JR九州有人駅等にも新たにポスターの掲示を行った。</p>

<p>AF 50～69歳の周囲の人への支援</p>	<p>①実施者 県弁護士会、県司法書士会、県看護協会、県臨床心理士会、県薬剤師会、市民生委員児童委員協議会、県精神保健福祉士協会、県理容協会、鹿児島県、鹿児島市など</p> <p>②対象 自殺を考えている人の周囲の人</p> <p>③実施内容 自殺予防対策委員会が、悩んでいる人に気づき、寄り添い、適切な相談機関につなぐゲートキーパーを養成する。市民を対象とした講座や自殺予防対策委員会に属する関係機関が開催するなど、多くの人が受講できる機会を作る。 また、ゲートキーパーが養成講座受講後も継続して自殺の現状や知識・支援の方法を学べるようにスキルアップ講座を開催し、ゲートキーパーの資質向上を図る。</p> <p>④過去一年間の改善点 市民・職員向けの実施を「初級編」としたことで、受講者のすそ野を広げ、さらにスキルアップのための受講体制を作った。</p>
<p>AG 相談しやすい場の設定</p>	<p>①実施者 鹿児島いのちの電話協会、市医師会、県弁護士会、県司法書士会、県臨床心理士会、県精神保健福祉士協会、市社会福祉協議会、鹿児島労働基準監督署、NPOいじめ対策プロジェクト、鹿児島県警察、鹿児島県、鹿児島市など</p> <p>②対象 中高年（50～69歳）とその周囲の人</p> <p>③実施内容 関係機関が、自殺に至る様々な要因に対応できる既存の相談を、事故やけがに関するアンケート調査の結果から得られた相談につながりやすい場所や時間、手段等を参考に検討し、必要に応じて変更する。 また、関係機関が連携して相談を受けられる場を自殺予防対策委員会で検討していく。</p> <p>④過去一年間の改善点 自殺予防週間に合わせて、相談しやすい場(ショッピングセンター内会議室・平日夕方6時以降)を設定し、自殺予防対策委員会連携相談会を5日間実施した。</p>

AH 相談窓口の周知	<p>①実施者 ゲートキーパー、鹿児島いのちの電話協会、市医師会、市薬剤師会、市立病院がん相談支援センター、鹿児島産業保健総合支援センター、鹿児島県警察、鹿児島県、鹿児島市など</p> <p>②対象 中高年（50～69歳）とその周囲の人</p> <p>③実施内容 自殺予防対策委員会が、相談窓口案内カードを作成する。作成においては、対象者が相談につながるように内容を検討し、また対象者にカードが届く効果的な配布・設置方法についても検討する。相談窓口案内カードの配布・設置については、関係機関と連携して取り組む。</p> <p>④過去一年間の改善点 相談窓口案内カードの内容検討を行い、改修した。また、パチンコ店など、よりハイリスク対象者の手に届きやすい場に設置した。</p>
------------	---

〔対策委員会名：防災・災害対策〕

目的：地域防災力の向上

具体的な目標：桜島地区における避難体制の再構築

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前避難予定者が4割いるが、実際に避難した人と避難していない人を把握できない。（課題1） ・避難フェリーの出港判断が難しい。（課題2） ・町内会等で家族情報の事前把握が必要。（課題3） ・高齢化率が高く、災害が発生した場合、2割の人が自力で避難できない。（課題4） ・町内会では自力避難できない人を把握していない。（課題5） ・要支援者に対する支援者が決まっていない。（課題6） ・高齢者・一般の避難訓練の参加者が少ない。（課題7） ・毎年の訓練が形骸化してきている。（課題8）
取組	取組内容（この1年間で変更した点は「赤字」で）
AI 住民の避難状況の把握	<p>①実施者 町内会（自主防災組織）、市消防団、民生委員、鹿児島市</p> <p>②対象 各町内会住民</p> <p>③実施内容 全住民の把握のため、住民一覧表を作成し、町内会、民生委員、市、消防、警察で共有するとともに、避難者が提出する家族カードと住民一覧表を突合することにより、事前避難した人を含め住民の避難状況の把握方法を構築する。</p> <p>④過去一年間の改善点 平成28年度、全島（26町内会）に取組を拡大し、住民一覧表の作成を行った。</p>
AJ 避難行動要支援者の避難体制確立	<p>①実施者 町内会（自主防災組織）、市消防団、民生委員 鹿児島市等</p> <p>②対象 各町内の避難行動支援者</p> <p>③実施内容 住民一覧表を作成する中で、自力避難の可否に係る調査により要支援者を把握し、町内会、消防団、民生委員の協議により消防団を支援者とする避難支援体制を構築する。</p> <p>④過去一年間の改善点 平成28年度、全島（26町内会）に取組を拡大し、避難に支援が必要な方の把握を行った。</p>

AK 避難訓練の充実強化	<p>①実施者 町内会（自主防災組織）、市消防団、鹿児島市等</p> <p>②対象 町内会住民</p> <p>③実施内容 毎年実施している島外避難訓練において、作成した住民一覧表を用いて全住民の把握を行うとともに、避難手順書を作成し、その手順書にしたがって避難訓練を実施する。</p> <p>④過去一年間の改善点 平成27年8月の噴火警戒レベル4引上げを受け、市地域防災計画「火山災害対策編」を新設した。 28年11月18日に初となる夜間での島内避難訓練を実施した。</p>
--------------	---

4-2. 過去1年間で対策委員会を新たに設置したり取組みを開始した場合、その根拠を示してください。

なし

4-3. 過去1年間の取組みのなかで最も成功した事例を少なくとも3つあげてください。

例) その取り組みによってパートナーシップや他の組織との関係が強化された、財源をより確保できた、あるいは得られたアウトカム（成果）など

■交通安全

- ・対策委員会で選定した校区や自主的に取組を決定した2校区（星峯東、武岡）で新たに取組を開始し、セーフコミュニティ大会の企画・運営や、夜光反射材着用啓発、交通安全マップの作成等の取組を推進した。また、吉野校区においては、交通安全マップのアンケートを実施し、住民の認識・行動の変化を調査した。

■学校の安全

- ・「取組状況調査」「意識・行動調査」「部活動だけがをしないための認知度・実践度調査」を実施することで、児童生徒の意識と行動の差の実態を把握し、取組の評価・検証を行った。
- ・小中学校で効果のあった取組や調査結果を市内全小中学校に周知し、課題や成果を共有することで取組の推進を図った。
- ・市内全小中高等学校の安全担当者を対象とした研修会や校長研修会、教頭研修会で、セーフコミュニティについても取り上げ、取組の周知と推進を図った。

■子どもの安全

- ・新たに2団体が取組を開始し、事故けがに関する情報発信やアンケート調査を実施した。
- ・取組の全市展開を行うにあたり、方針（考え方）を整理し、取組の推進を効果的に図ることができるようになった。

■高齢者の安全

- ・モデル地区の町内会で行われていた認知症に関する意識啓発の講座が、校区の地域コミュニティ協議会において開催されたほか、転倒予防のための住環境の改善の啓発のためのパンフレットを、モデル地区が同校区の2町内会と連携して配布（計1,920部）するなど、モデル地区の町内会での取組が、より広域の校区単位での取組に発展した。

■DV防止

- ・カードサイズDVリーフレットの配布・設置箇所及び街頭啓発活動の実施場所をより人が集まる商業施設などへ見直し、より多くの方に情報提供及び啓発を行うことができた。
- ・男性相談カードの設置箇所拡大等により、男性相談の件数が増加した。

■自殺予防

- ・自殺予防週間に合わせて（9月12日～16日）、相談しやすい場（ショッピングセンター内会議室・平日夕方6時以降）を設定し、自殺予防対策委員会連携相談会を実施した。ミニレクチャー・相談会を毎日行い、参加者は21人だった。相談会の企画、役割分担、広報など委員が積極的に関わることができ、その結果、関係機関の連携が強化され、広報に鹿児島市無料相談窓口も添付したことで相談窓口の周知が広く行われた。

■防災・災害対策

- ・平成28年度から委嘱した安心安全推進指導員と防災関係機関が連携する中で、桜島全島民の住民一覧表を作成した。
- ・全島（26町内会）に取組を拡大し、住民意向調査をもとに作成した住民一覧表を町内会、民生委員及び消防と共有した。
- ・住民一覧表の調査と併せて、桜島大規模噴火時の全島避難に関する住民意向調査を行い、「日中の居場所や何時の時点で避難するのか」などのアンケート調査を行った。
- ・市地域防災計画に「火山災害対策編」を新設し、台風などで避難用フェリーが運航できない状況についての対応策などを策定するとともに、その周知に努めた。

指標5 傷害の程度や原因を記録する仕組み

5-1. 報告書で示した計画通りに外傷データの分析を行いましたか？

はい いいえ

※「はい」の場合、そのデータの入手先、分析の方法・内容、分析結果の活用方法を記載してください。

データ	分析の内容	分析結果の活用方法
人口動態統計（かごしま市の保健と福祉）	不慮の事故、自殺等に関する死亡状況を把握	市内の主な死亡原因を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
内閣府 自殺統計原票データの特別集計	自殺に関する死亡状況を把握	年齢別の自殺原因を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
救急搬送（消防年報、“一般負傷”細分化データ）	事故種別（交通事故等）に加え、一般負傷の具体的な事故種別を細分化し、詳細な搬送状況を把握	詳細な事故種別やけがの発生場所、けがの部位等を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
警察統計（交通事故統計分析表）	交通事故による死亡、負傷状況を把握（鹿児島市に限定した集計含む）	交通事故の発生状況を年代別、学齢別等に把握し対策委員会の活動等に活用した。
学校管理下における事故等の状況（日本スポーツ振興センター災害共済給付データ）	児童生徒の災害共済給付金対象の事故等の状況を把握	児童生徒の学校管理下における事故等の状況を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
意識・行動調査	市立小中学校を対象に、児童生徒のけが防止に関する意識や行動を把握	児童生徒のけが防止に関する意識や行動を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
児童虐待相談件数	児童虐待に関する相談状況を把握	児童虐待に関する相談状況を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
介護保険認定状況	介護保険の認定状況を把握	介護保険の認定状況を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
高齢者虐待に関する相談件数	高齢者虐待に関する相談状況を把握	高齢者虐待に関する相談状況を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
DV（ドメスティック・バイオレンス）相談件数	DVに関する相談状況を把握	DVに関する相談状況を把握し、対策委員会の活動等に活用した。
桜島噴火回数・爆発回数	桜島の噴火及び爆発の状況を把握	桜島の噴火及び爆発の状況を把握し、対策委員会の活動等に活用した。

○平成28年8月実施

データの入手先	分析の方法・内容	分析結果の活用方法
事故やけがに関するアンケート調査 ※次回平成31年度実施予定	市民3,500人を対象に、セーフコミュニティ活動による認識や行動の変化等を把握	セーフコミュニティ活動による認識や行動の変化等を把握し、対策委員会の活動等に活用したほか、取組の評価・検証の基礎資料とした。

○平成28年度より実施

データの入手先	分析の方法・内容	分析結果の活用方法
医療データ ※毎年度収集予定	市内3病院より、医療データを収集し、事故やけがの治療に係る医療費等を把握	事故やけがに起因すると考えられる代表的な外傷の治療に要する医療費について、外傷サーベイランス委員会において協議を進めている。

5-2. 来年に向けて、外傷データの分析における課題や改善すべき点はありますか？

はい いいえ

※「はい」の場合、その詳細について具体的に記載してください。

○ 医療データの具体的な活用方法

市内3病院より収集した医療データは、外傷の傾向から取組のターゲットを確認し、セーフコミュニティによる医療費縮減等の効果を積算するための基礎データとして活用することを目的としており、その具体的な活用方法などについて、外傷サーベイランス委員会において協議・検討を進めている。

指標6 評価の仕組み

6-1. 過去1年間のアセスメントを行いましたか？

はい いいえ

※「はい」の場合、評価の簡単な概要、どのように評価が取組の改善等に反映されているか、などの情報を示してください。また、関連する資料があれば添付してください。・・・・・・〔添付5〕

- ・各対策委員会において設定した取り組みの成果指標（短期・中期・長期）に基づく評価を実施
- ・外傷サーベイランス委員会において各種データ等の専門的な分析、評価を実施
- ・セーフコミュニティ推進協議会において、年間活動報告書による取り組み全般に対する内部評価を実施
- ・年間活動報告書による取り組み全般に対する外部評価を日本セーフコミュニティ推進機構に依頼

※「いいえ」の場合、その理由を述べてください

6-2. 対策委員会による取組のアセスメントについて

各対策委員会が進めている取組の評価について述べてください。

※対策委員会やプログラムの数に応じて、下記の表をコピーして活用してください

※「評価指標」については、報告書と一致させてください。変更した場合は、変更点がわかるように赤字で記載してください

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

〔対策委員会：交通安全〕

目的：交通事故の減少

具体的な目標：自動車による交通事故減少

取組名	A シートベルト着用の啓発活動（全席シートベルトの着用）	
活動指標	実績	
街頭キャンペーン等での啓発活動の実施回数・配布数	[モデル地区] 2013年度：5回、902枚配布 2014年度：7回、442枚配布 2015年度：1回、200枚配布 [参考：全市] 2015年度：43回、12,700枚配布 ※他の取組との重複集計あり	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①シートベルトの着用義務の認識度 ②アンケート調査 ③運転者	[全市] 2016年度 (一般) ・運転者：96.0% ・助手席同乗者：95.7% ・後部座席同乗者：89.7% (高齢者) ・運転者：88.6% ・助手席同乗者：91.9% ・後部座席同乗者：83.7%	[参考：モデル地区] 2016年度 (一般) ・運転者：92.2% ・助手席同乗者：90.6% ・後部座席同乗者：82.8% (高齢者) ・運転者：91.1% ・助手席同乗者：91.1% ・後部座席同乗者：84.4%

長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①シートベルト未着用による 交通事故死傷者数 ②警察統計データ ③運転者	2013年 運転者：17人 （助手席同乗者：5人） （後部座席同乗者：92人） 2014年 運転者：20人 （助手席同乗者：7人） （後部座席同乗者：127人） 2015年 運転者：16人 （助手席同乗者：3人） （後部座席同乗者：107人）

取組名	B 企業等への交通安全講習等	
活動指標	実績	
企業等への交通安全講習等の 実施回数・参加者数	[モデル地区] 2014年度：2回、34人 [参考：全市] 2015年度：136回、8,483人 ※他の取組との重複集計あり	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③運転者（20～60歳代） 交通安全講習等を実施した企 業等	[全市] 2016年度 79.1% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	[参考：モデル地区] 2016年度 76.1%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①交通ルール・マナーの認識に よる行動の変化 ②アンケート調査 ③運転者（20～60歳代） 交通安全講習等を実施した企 業等	[全市] 2016年度 69.8% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	[参考：モデル地区] 2016年度 79.6%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①稼働年齢層の交通事故死傷 者数（1万人あたり） ②警察統計データ ③運転者（20～60歳代）	2013年 97.00人 2014年 93.40人 2015年 88.38人	

[全体評価 (A, B)]

短期指標 (認識・知識)	短期評価 (認識・知識)						
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)						
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)						
①自動車による交通事故死傷者数と交通違反種別 ②警察統計データ ③運転者	(交通事故死傷者数) (人)						
		年齢層	合計	内訳			
				人対車両	車両単独	車両相互	その他
	2013年	20歳未満	388	62	32	294	0
		20～64歳	3,433	180	206	3,047	0
		65歳以上	694	159	58	477	0
		合計	4,515	401	296	3,818	0
	2014年	20歳未満	325	60	19	246	0
		20～64歳	3,260	178	164	2,918	0
		65歳以上	672	140	77	455	0
		合計	4,257	378	260	3,619	0
	2015年	20歳未満	288	53	24	211	0
		20～64歳	3,035	155	146	2,734	0
		65歳以上	676	127	74	475	0
		合計	3,999	335	244	3,420	0
(交通違反種別) (人)							
	合計	主な違反種別					
		安全運転義務違反	一時不停止	交差点安全進行	歩行者妨害等	信号無視	
2013年	3,636	2,847	114	138	141	82	
2014年	3,881	3,197	105	184	93	74	
2015年	3,433	2,720	108	101	101	88	

具体的な目標：高齢者の交通事故減少

取組名	C 参加・体験型の交通安全教室等	
活動指標	実績	
交通安全教室等の実施回数・参加者数	[モデル地区] 2013年度：5回、232人 2014年度：5回、157人 2015年度：1回、25人 [参考：全市] 2015年度：222回、14,393人 ※他の取組との重複集計あり	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③ 高齢運転者 、高齢者	[全市] (高齢運転者) 2016年度 64.3% (高齢者) 2016年度 63.3% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	[参考：モデル地区] (高齢運転者) 2016年度 56.4% (高齢者) 2016年度 61.8%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③ 高齢運転者 、高齢者	[全市] (高齢運転者) 2016年度 82.8% (高齢者) 2016年度 60.3% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	[参考：モデル地区] (高齢運転者) 2016年度 80.9% (高齢者) 2016年度 55.1%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
① 高齢運転者による交通事故死傷者数 、歩行中の高齢者の交通事故死傷者のうち交通ルールを守らないで死傷した数 ②警察統計データ ③ 高齢運転者 、歩行中の高齢者	2013年 ・高齢運転者を第1当事者とする交通事故死傷者：719人 ・歩行中の高齢者：56人 2014年 ・高齢運転者を第1当事者とする交通事故死傷者：733人 ・歩行中の高齢者：69人 2015年 ・高齢運転者を第1当事者とする交通事故死傷者：704人 ・歩行中の高齢者：44人	

取組名	D 高齢者の世帯訪問による交通安全教育
活動指標	実績
高齢者の世帯訪問による交通安全教育を実施した世帯数・人数	[参考：全市] 2015年度 10,621世帯、23,473人 ※世帯数 一部統計なし
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査、訪問時の聴き取り調査 ③交通安全教室等に参加していない高齢者、訪問高齢者	(アンケート調査) 2016年度 66.0% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査、訪問時の聴き取り調査 ③交通安全教室等に参加していない高齢者、訪問高齢者	(アンケート調査) 2016年度 60.0% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①高齢者の交通事故死傷者数 (1万人あたり) ②警察統計データ ③高齢者	2013年 50.56人 2014年 47.17人 2015年 45.67人

取組名	E 夜光反射材の着用啓発	
活動指標	実績	
街頭キャンペーン等での啓発活動の実施回数・配布数	[モデル地区] 2013年度：7回、1,082個配付 2014年度：6回、932個配布 2015年度：1回、200個配付 [参考：全市] 2015年度：28回、4,925個配布 ※他の取組との重複集計あり	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①夜光反射材の重要性の認識度 ②アンケート調査 ③高齢者	[全市] 2016年度 89.4%	[参考：モデル地区] 2016年度 97.8%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①夜光反射材着用者の割合 ②アンケート調査 ③高齢者	[全市] 2013年度 14.1% 2016年度 17.8%	[参考：モデル地区] 2016年度 20.0% ※「活用している」「たまに活用している」と回答した割合
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①夜間における歩行中の高齢者の交通事故死傷者数 ②警察統計データ ③歩行中の高齢者	2013年 60人 2014年 54人 2015年 40人	

具体的な目標：子ども（中学生以下）の交通事故減少

取組名	F 保護者等も含めた参加・体験型の交通安全教育等（歩行中の未就学児、小学生向け）	
活動指標	実績	
・交通安全教育等の実施回数・参加者数 ・保護者の交通安全教室等への参加率	[モデル地区] 2013年度：1回、27人 2014年度：1回、79人 （うち保護者3人、保育士7人） 2015年度：1回、100人 [参考：全市] 2015年度：165回、24,362人、 保護者92人	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③子ども	[全市] 2016年度 74.5% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	[参考：モデル地区] 2016年度 77.1%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③子ども	[全市] 2016年度 61.0% ※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	[参考：モデル地区] 2016年度 77.1%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①歩行中の子どもの交通事故死傷者にうち交通ルールを守らないで死傷した数 ②警察統計データ ③歩行中の子ども	2013年 25人 2014年 27人 2015年 20人	

取組名	G 保護者等も含めた参加・体験型の交通安全教育等（自転車乗車中の小学生、中学生向け）	
活動指標	実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育等の実施回数・参加者数（自転車大会等も含む） ・保護者の交通安全教室等への参加率 	<p>[モデル地区]</p> <p>2013年度：1回、221人</p> <p>2015年度：1回、54人、 保護者24人</p> <p>[参考：全市]</p> <p>2015年度：39回、6,990人、 保護者24人</p>	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
<ul style="list-style-type: none"> ①自転車の交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③自転車乗車中の子ども 	<p>[全市]</p> <p>2016年度 71.3%</p>	<p>[参考：モデル地区]</p> <p>2016年度 75.0%</p>
	※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
<ul style="list-style-type: none"> ①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③自転車乗車中の子ども 	<p>[全市]</p> <p>2016年度 59.1%</p>	<p>[参考：モデル地区]</p> <p>2016年度 70.0%</p>
	※全項目の平均値 但し「無回答」を除く	
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
<ul style="list-style-type: none"> ①自転車乗車中の子どもの交通事故死傷者にうち交通ルールを守らないで死傷した数 ②警察統計データ ③自転車乗車中の子ども 	<p>2013年 38人</p> <p>2014年 22人</p> <p>2015年 15人</p>	

取組名	H 交通安全マップの作成
活動指標	実績
交通安全マップの作成（更新）・配付数・活用方法	[モデル地区] 2014年度 1回 配付：6,000枚 配布先：町内会、PTA、幼稚園、保育園 など
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①交通事故発生箇所、危険箇所等の認知度 ②アンケート調査 ③モデル地区住民	[モデル地区] 2016年度 53.0%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①交通事故発生箇所、危険箇所の認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③モデル地区住民	[モデル地区] 2016年度 84.0%
①交通事故発生箇所、危険箇所への整備や対策 ②危険箇所等の整備及び路面標示・看板等の設置・改善件数 ③整備及び路面標示・看板等の設置・改善箇所	[モデル地区] 2015年度 改善件数 1件 (要望件数 5件)
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①モデル地区における交通事故死傷者数 (1万人あたり) ②警察統計データ ③モデル地区住民	2013年 吉野交番管内：40.64人 2014年 吉野交番管内：43.23人 2015年 吉野交番管内：39.13人

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

〔対策委員会：交通安全〕

取組名「高齢運転者への安全運転講習等」について

高齢者は歩行者も運転者も身体能力の衰えや行動習慣など、他の年齢層とは区別し、よりきめ細やかな対策が必要であることや、高齢者を対象とした交通安全教室は、運転者、歩行者の区分なく実施されることが一般的であることから、「C 参加・体験型の交通安全教室等」に統合した。

取組名「C 参加・体験型の交通安全教室等」について

長期指標の①指標名「高齢運転者の交通事故死傷者数、歩行中の高齢者の交通事故死傷者のうち交通ルールを守らないで死傷した数」を「高齢運転者による交通事故死傷者数、歩行中の高齢者の交通事故死傷者のうち交通ルールを守らないで死傷した数」に変更した。

取組名「D 高齢者の世帯訪問による交通安全教育」について

活動指標は1回の実施による訪問世帯数がまちまちであることから、実施回数を除き訪問世帯数等のみで測ることとした。

取組名「E 夜光反射材の着用啓発」について

長期指標の①指標名「夜間における高齢者の交通事故死傷者に占める夜光反射材着用者の割合」を「夜間における歩行中の高齢者の交通事故死傷者数」に変更した。

取組名「B 企業等への交通安全講習等」「D 高齢者の世帯訪問による交通安全教育」「H 交通安全マップ」について

高齢人口の増など、人口比率を考慮し、長期の①指標名を、人数から、1万人あたりの人口割に変更した。

〔対策委員会：学校の安全〕

目的：児童生徒の事故の減少

具体的な目標：市立小中学校の校内等でのけがの減少

取組名	I 休憩時間（けがの多い時間帯）にけが防止を呼びかける「校内パトロール」
活動指標	実績
1校あたりの校内パトロールの実施回数	2015年度9月～3月 11.4回 ※実施校平均
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①休憩時間に発生しているけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度	2015年7月 88% 2016年2月 89%
②けが防止対策取組状況調査（校内パトロール実施校）	
③「校内パトロール」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①休憩時間に発生しているけがを防ぐための安全な行動の実践度	2015年7月 95% 2016年2月 82%
②けが防止対策取組状況調査（校内パトロール実施校）	
③「校内パトロール」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①校内等のけがの発生件数	2014年度 3,682件
②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ	2015年度 3,594件
③市立全小中学校の児童生徒	

取組名	J 校庭・運動場など、けがの多い場所を示し、けが防止を働きかける「危険箇所マップづくり」
活動指標	実績
1校あたりの危険箇所マップ追加回数	2015年度9月～3月 6.1回 ※実施校平均
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①校庭・運動場などで発生しているけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度	2015年7月 86% 2016年2月 77%
②けが防止対策取組状況調査（危険箇所マップづくり実施校）	
③「危険箇所マップづくり」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①校庭・運動場などで発生しているけがを防ぐための安全な行動の実践度	2015年7月 87% 2016年2月 74%
②けが防止対策取組状況調査（危険箇所マップづくり実施校）	
③「危険箇所マップづくり」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①校内等のけがの発生件数	2014年度 3,682件
②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ	2015年度 3,594件
③市立全小中学校の児童生徒	

取組名	K 骨折など、けがの多い種類を示し、けが防止を働きかける「『危険』などの表示」
活動指標	実績
1校あたりの表示の掲載箇所数、張り替え回数	(『危険』などの表示) 掲示箇所数 2015年度9月～3月 7.1箇所 (張り替え回数) 2015年度9月～3月 2.0回 ※実施校平均
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (認識・知識)
①骨折、挫傷・打撲、捻挫などのけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査 (『危険』などの表示) 実施校 ③「『危険』などの表示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	2015年7月 92% 2016年2月 82%
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)
①骨折、挫傷・打撲、捻挫などのけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査 (『危険』などの表示) 実施校 ③「『危険』などの表示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	2015年7月 87% 2016年2月 71%
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)
①校内等のけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ ③市立全小中学校の児童生徒	2014年度 3,682件 2015年度 3,594件

取組名	L 手や足（けがの多い部位）を示し、けが防止を働きかける「ポスターの掲示」
活動指標	実績
1校あたりのポスターの掲示箇所数、張り替え回数	（「ポスター」掲示箇所数） 2015年度9月～3月 6.9箇所 （張り替え回数） 2015年度9月～3月 2.1回 ※実施校平均
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①手や足などのけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査（「ポスターの掲示」実施校） ③「ポスターの掲示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	2015年7月 87% 2016年2月 83%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①手や足などのけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査（「ポスターの掲示」実施校） 【確認の対象】 ③「ポスターの掲示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	2015年7月 87% 2016年2月 77%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①校内等のけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ ③市立全小中学校の児童生徒	2014年度 3,682件 2015年度 3,594件

取組名	M 転倒など、けがの多い原因を説明し、けが防止を呼びかける「集会活動での呼びかけ」
活動指標	実績
1校あたりの集会活動での呼びかけ実施回数	2015年度9月～3月 3.9回 ※実施校平均
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①転倒などが原因のけがを防止するための安全な行動の仕方の認知度	2015年7月 87% 2016年2月 92%
②けが防止対策取組状況調査（「集会活動での呼びかけ」実施校）	
③「集会活動での呼びかけ」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①転倒などが原因のけがを防止するための安全な行動の実践度	2015年7月 82% 2016年2月 79%
②けが防止対策取組状況調査（「集会活動での呼びかけ」実施校）	
③「集会活動での呼びかけ」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①校内等のけがの発生件数	2014年度 3,682件
②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ	2015年度 3,594件
③市立全小中学校の児童生徒	

取組名	N 部活動中のけがを防止するために、部位を伸ばすストレッチ運動や柔軟運動などを取り入れた「入念な準備運動」
活動指標	実績
1週間あたりの入念な準備運動の実施回数	2015年度1月～3月 週3.9回 ※実施校平均
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①部活動中に発生しているけがを防ぐための安全な行動の認知度 ②けが防止対策取組状況調査 ③「入念な準備運動」に取り組んだ全中学校の生徒	2016年3月 90%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①部活動中に発生しているけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査 ③「入念な準備運動」に取り組んだ全中学校の生徒	2016年3月 78%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①部活動中に発生したけがの件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ ③市立全中学校の生徒	2015年度 694件

取組名	○ 部活動中のけがを防止するために、けがの原因や今後の取組などについて話し合う「キャプテン会議の開催」
活動指標	実績
1学期あたりのキャプテン会議の開催回数	2015年度1月～3月 1.5回 ※実施校平均
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①部活動中に発生しているけがを防ぐための安全な行動の認知度 ②けが防止対策取組状況調査 ③「キャプテン会議」に取り組んだ市立全中学校の生徒	2016年3月 88%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①部活動中に発生しているけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査 ③「キャプテン会議」に取り組んだ市立全中学校の生徒	2016年3月 86%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①部活動中に発生したけがの件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ ③市立全中学校の生徒	2015年度 694件

[全体評価 (I~O)]

短期指標 (認識・知識)	短期評価 (認識・知識)
①けが防止に関する知識 (意識)	2015年7月 61%
②意識・行動調査	2016年7月 87%
③市立全小中学校の児童生徒	
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)
①けが防止に関する行動	2015年7月 55%
②意識・行動調査	2016年7月 83%
③市立全小中学校の児童生徒	
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)
①けが防止に関する意識と行動の差	2015年7月 5.5%
②意識・行動調査	2016年7月 3.2%
③市立全小中学校の児童生徒	

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

[対策委員会：学校の安全]

長期指標 (外傷数等状況) の変更について

学校の安全分野では、目標「市立小中学校の校内等でのけがの減少」を目指して、IからOの対策を行っているため、それぞれの対策ごとに長期指標を定めることが困難である。そこで、全ての対策を通して、校内等のけがの発生件数がどれだけ変化したのかを日本スポーツ振興センター災害共済給付データの結果をもとに評価したいと考え、IからOの長期指標を共通した長期指標に変更した。

〔対策委員会：子どもの安全〕

目的：子どもの身体と心の安心・安全を守る

具体的な目標：家庭内等での事故・けがの減少

取組名	P 家庭内での事故・けがに関する情報の発信	
活動指標	実績	
情報発信を行っている団体等数、回数	[モデル団体] (園便りによる啓発) 2014年度 12回/ 2団体 2015年度 22回/ 2団体 (アンケート調査) 2014年度 140人/ 4団体 2015年度 81人/ 4団体	
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (認識・知識)	
①家庭内の安全対策についての認識度 ②アンケート ③保護者	[モデル団体] 2014年度 66.0% 2015年度 69.8% ※2015年度末では、認識度を調査していないため、安全対策に取り組んでいる人の割合	[参考：全市] 2016年度 64.6%
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)	
①家庭内の安全対策に取り組んでいる人の割合 ②アンケート ③保護者	[モデル団体] 2014年度 66.0% 2015年度 69.8%	
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)	
①子どもの事故・けがの人数 ②救急搬送データ ③子ども	2014年 276人 2015年 284人 ※0歳～6歳	

取組名	Q 児童への安全教育
活動指標	実績
児童への遊具等の使い方指導回数	[モデル団体] 2015年度 31回/幼稚園・保育園
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①危険箇所に対する児童の認識度 ②職員アンケート ③児童	2016年度 ・3歳児 64.3% ・4歳児 66.3% ・5歳児 66.3%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①危険回避のための児童の行動 ②職員アンケート ③児童	2016年度 ・3歳児 58.6% ・4歳児 68.8% ・5歳児 75.7%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①園内での児童の事故・けがの人数 ②事故報告書 ③児童	2015年度 17件/幼稚園・保育園

取組名	R 職員による室内、園庭等の安全点検
活動指標	実績
職員による室内、園庭等の安全点検回数、箇所数	[モデル団体] 2015年度 308回、146箇所/幼稚園・保育園
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①遊具等の危険箇所の発見箇所数 ②安全点検記録簿 ③施設等	2015年度 3箇所/幼稚園・保育園
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①遊具等の危険箇所の改善箇所数 ②安全点検記録簿 ③施設等	2015年度 3箇所/幼稚園・保育園
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①園内での児童の事故・けがの人数 ②事故報告書 ③児童	2015年度 17件/幼稚園・保育園

取組名	S体力・運動能力の向上を目的とした活動
活動指標	実績
体力・運動能力の向上を目的とした活動を一定時間（目安：30分）確保した日数	[モデル団体] 2015年度 13日/幼稚園
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①活動中、体を動かすことに興味がある児童の割合 ②職員アンケート ③児童	2016年度 ・3歳児 81.7% ・4歳児 82.5% ・5歳児 87.5%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①活動中、自主的に体を動かしている児童の割合 ②職員アンケート ③児童	2016年度 ・3歳児 76.0% ・4歳児 73.8% ・5歳児 83.8%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①園内での児童の事故・けがの人数（体力・運動能力に無関係なものを除く） ②事故報告書 ③児童	2015年度 12件/幼稚園・保育園

具体的な目標：子育て中の親への支援

取組名	T 子育てに悩みがある保護者の相談及び子育て体験談の情報発信
活動指標	実績
子育てに悩みがある保護者の相談回数・人数、体験談事例集、情報発信数	[モデル団体] (アンケート調査) 2014年度 140人/ 4団体 2015年度 81人/ 4団体
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (認識・知識)
①保護者の悩み等の相談場所及び体験談事例集の認識度 ②アンケート ③保護者	(保護者の悩み等の相談場所の認識度) 2016年度 相談場所 59.5% (全市) (体験談事例集の認識度) 事例集は2015年12月末発行のため認識度はとっていない
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)
①支援が必要な保護者の相談者数及び事例集が参考になった人の割合 ②相談記録、アンケート ③保護者	(支援が必要な保護者の相談者数) 2015年度 相談者数 1人 (事例集が参考になった人の割合) 2016年度末にアンケートで調査予定
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)
①相談内容(悩み)が解消された割合 ②相談記録、アンケート ③保護者	2015年度 解消者数 1人

取組名	U 児童虐待予防の学習会
活動指標	実績
児童虐待予防の学習会数、参加者数	[モデル団体] 2014年度 2回、21人/幼稚園・保育園 2015年度 2回、19人/幼稚園・保育園
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①児童虐待に対する認識度 ②アンケート ③職員	2014年度 98.7% 2015年度 95.2%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①虐待の疑いがある家庭を行政につないだ件数 ②対応記録 ③職員	2014年度 0件 2015年度 0件
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①児童虐待認定件数の減 ②児童虐待認定件数 ③被虐待児	2014年度 98件 2015年度 121件

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

〔対策委員会：子どもの安全〕

取組名「P 家庭内での事故・けがに関する情報の発信」について

活動指標中、情報発信の回数において、母親クラブやふれあい・子育てサロンについては講習会（AED講習や安全教室）の実施回数を数えることとしていたが、幼稚園や保育園と同様に配付物等による情報発信についても活動指標とした。

取組名「Q 児童への安全教育」について

分かりやすい表現に修正

取組名「R 職員による室内、園庭等の安全点検」について

短期成果指標「危険箇所に対する認識」、中期成果指標「危険箇所に対する安全点検方法の変化」は、各園・各職員で判断基準を統一することが困難であると考えられるため、客観的に把握しやすい危険箇所の発見・改善箇所に変更した。

取組名「S 体力・運動能力の向上」について

モデル団体固有の内容や表現を、全市展開を推進するにあたり、各園が取り組みやすい内容等に変更した。

〔対策委員会：高齢者の安全〕

目的：高齢者の外傷の減少

具体的な目標：高齢者の転倒による外傷の減少

取組名	Ⅴ 転倒予防のための料理教室・講習会の実施	
活動指標	実績	
転倒予防のための料理教室・講習会の実施回数、参加者数	[モデル地区] 2014年度 2回、48人参加 2015年度 1回、23人参加	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①転倒予防のための食生活の必要性の認識度 ②アンケート調査 ③参加者 65歳以上の市民	[全市] 2016年度 57.2%	[参考：モデル地区] 2016年度 63.6%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①食生活、生活改善をした人の割合 ②アンケート調査 ③参加者 65歳以上の市民	[全市] 2016年度 28.2%	[参考：モデル地区] 2016年度 36.4%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①転倒、転落による救急搬送件数 転倒、転落による死亡者数 ②救急搬送データ かごしま市の保健と福祉(人口動態統計) ③65歳以上の市民	(転倒、転落による救急搬送件数) 2015年度 2,036人 (転倒、転落による死亡者数) 2014年 18人	

取組名	W 転倒予防教室の実施	
活動指標	実績	
転倒予防教室の実施回数・参加者数	[モデル地区] 2014年度 12回実施、延べ120人参加 2015年度 23回実施、延べ222人参加	
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）	
①転倒予防のための健康づくりの認識度 ②アンケート調査 ③参加者 65歳以上の市民	[全市] 2016年度 74.4%	[参考：モデル地区] 2016年度 77.3%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①運動を習慣化している人の割合 ②アンケート調査 ③参加者 65歳以上の市民	[全市] 2016年度 39.8%	[参考：モデル地区] 2016年度 47.7%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①転倒、転落による救急搬送数 転倒、転落による死亡者数 ②救急搬送データ かごしま市の保健と福祉(人口動態統計) ③65歳以上の市民	(転倒、転落による救急搬送件数) 2015年度 2,036人 (転倒、転落による死亡者数) 2014年 18人	

取組名	X 住環境の改善	
活動指標	実績	
・転倒予防のためのパンフレット配布部数	(参考) 2016年度 1,920部	
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (意識・知識)	
①住宅危険箇所の認識度 ②アンケート調査 ③パンフレット配布世帯 65歳以上の市民	[全市] 2016年度 62.1%	[参考：モデル地区] 2016年度 63.6%
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)	
①転倒予防の対策を行う人の割合 住宅改造費助成等件数 住宅改修指導件数 ②アンケート調査 長寿支援課統計 ③パンフレット配布世帯 65歳以上の市民	[全市] (転倒予防の対策を行う人の割合) 2016年度 57.4% (住宅改造費助成等件数) 2015年度 2,978件 (住宅改修指導件数) 2015年度 4世帯	[参考：モデル地区] (転倒予防の対策を行う人の割合) 2016年度 61.4% (住宅改造費助成等件数) 2015年度 17件
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)	
①転倒、転落による救急搬送件数 転倒、転落による死亡者数 ②救急搬送データ かごしま市の保健と福祉(人口動態統計) ③65歳以上の市民	(転倒、転落による救急搬送件数) 2015年度 2,036人 (転倒、転落による死亡者数) 2014年 18人	

目的：高齢者虐待の減少

具体的な目標：虐待や認知症への啓発・理解の促進

取組名	Y 認知症に関する意識啓発	
活動指標	実績	
・講座・研修会の実施回数、参加者数 ・認知症に関するパンフレットの配布部数	[モデル地区] (認知症サポーター養成講座) 2014年度 2回、80名参加 2015年度 1回、35名参加 [参考：全市] (認知症サポーター養成講座) 2015年度 139回、4,963人 (認知症に関するパンフレットの配布部数) 2015年度 2,813部	
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (認識・知識)	
①虐待、認知症に対する理解度 認知症サポーターの認知度 ②アンケート調査 ③市民参加者	[全市] (認知症に対する理解度) 2016年度 83.4% (一般区分) 2016年度 75.2% (高齢者区分) (虐待に対する理解度) 2016年度 84.1% (一般区分) 2016年度 77.3% (高齢者区分) (認知症サポーターの認知度) 2016年度 29.8% (一般区分) 2016年度 9.7% (高齢者区分)	[参考：モデル地区] (認知症に対する理解度) 2016年度 81.8% (高齢者区分) (虐待に対する理解度) 2016年度 79.5% (高齢者区分) (認知症サポーターの認知度) 2016年度 9.1% (高齢者区分)
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)	
①認知症サポーター数 認知症等見守りメイト登録数 認知症高齢者への虐待相談件数 ②長寿支援課統計 ③市民 市民以外のボランティア	(認知症サポーター数(累計)) 2015年度末 32,189人 (認知症等見守りメイト登録数(累計)) 2015年度末 389人 (認知症高齢者への虐待相談件数) 2015年度 27人	
①認知症高齢者への対応の変化 ②アンケート調査 ③参加者	[全市] 2016年 75.0% (一般区分) 2016年 39.3% (高齢者区分)	[参考：モデル地区] 2016年 33.3% (高齢者区分)

長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①高齢者の虐待相談件数 ②長寿支援課統計 ③65歳以上の市民	2015年度 68人 ※施設虐待を含まない。

取組名	Z 高齢者世帯への見守り活動
活動指標	実績
・ともしびグループ等による見守り活動の対象者数 ・地域の見守りのための福祉マップ作成	[モデル地区] モデル地区の町内会の福祉部長(10人)による見守り活動の実施 福祉マップ作成済（毎年更新） [参考：全市] （ともしびグループ訪問対象者数） 2015年度 1,374件
短期指標（認識・知識）	短期評価（認識・知識）
①地域の認知症高齢者の把握 ②活動報告 介護保険課統計 ③65歳以上の市民	（地域の認知症高齢者の把握（ともしびグループ）） 2015年度 28人 （認知症高齢者数（介護認定において日常生活自立度Ⅱ以上）） 2015年度 19,986人
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①認知症高齢者への虐待相談件数 ②長寿支援課統計 ③65歳以上の市民	2015年度 27人
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①高齢者の虐待相談件数 ②長寿支援課統計 ③65歳以上の市民	2015年度 68人 ※施設虐待を含まない。

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

〔対策委員会：高齢者の安全〕

取組名「X 住環境の改善」短期・中期指標について

③確認の対象「補助の利用者」について、認識・知識や態度・行動の変化があった結果、補助を利用した者であるため、成果を測る対象として適当ではないため、削除する。

また、活動指標のうち「住宅改造費助成等件数」及び「住宅改修指導件数」については、啓発活動により住宅危険箇所を認識した結果、住環境の改善という態度・行動の変化につながったものであるため、中期指標に変更する。

取組名「Z 民生委員・認知症等見守りメイトによる見守り活動」について

「民生委員・認知症等見守りメイト」の活動の把握が困難であり、民生委員をはじめ、認知症等見守りメイトや、地域のボランティアグループ「ともしびグループ」による認知症高齢者を含む地域の高齢者の見守り活動や、モデル地区における町内会の福祉部長による見守り活動など、様々な見守り活動が行われていることから「高齢者世帯への見守り活動」に修正するとともに、中期の成果指標の①指標名「認知症高齢者への対応の変化」について、指標の把握が困難であるため、削除する。

その他、確認方法、確認の対象について、表現の統一や誤りの修正など、文言の整理を行う。

〔対策委員会：DV防止〕

目的：DVの防止

具体的な目標：DVの正しい理解と気づきの促進

取組名	AA DV防止のための情報提供及び啓発（DVの被害者・加害者を含めた市民全般向け）
活動指標	実績
啓発配布物の配布数	（市民のひろばへのDV防止啓発記事掲載） 毎年度 全世帯（約28万4千世帯） （カードサイズDVリーフレットの配布数） 2015年度 約31,000枚（設置箇所：約1,500箇所） ※医療機関や商業施設等へ設置増 （パープルリボンキャンペーン街頭啓発活動） 2015年度 1,000枚配布
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）
①DVに対する市民の認識の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査結果 女性に対する暴力に関する講演会のアンケート結果 ③市民全般	○DVに対する認知度 （身体的暴力に対する認知度） 2016年度 96.2% ※アンケート設問：身体を傷つける可能性のある物でなく （精神的暴力に対する認知度） 2016年度 71.6% ※アンケート設問：交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する （性的暴力に対する認知度） 2016年度 79.6% ※アンケート設問：避妊に協力しない ○相談先の認知度 2013年度 24.4% 2016年度 30.8%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①DV相談件数の増 ②DV相談統計（市・県・警察等市内の相談窓口） ③DV相談者	2014年度 ・市:777件 県:673件 ・警察:3,130件 ・合計 4,580件 2015年度 ・市:671件 県:860件 ・警察:3,425件 ・合計 4,956件

長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①DVは人権を侵害する行為であるという考えの浸透	（DVは人権を侵害する行為であると答えた人） 2010年度 86.8% 2015年度 91.0%
②男女共同参画に関する市民意識調査結果	
③調査対象者に抽出された市民	

取組名	AB 相談員の資質向上
活動指標	実績
相談員を対象とする研修会の実施回数及び参加者数	2015年度 計8回（市：2回、県：6回）
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）
①相談員のスキルアップに対する認識の変化	現在、アンケート内容を検討中
②アンケート結果	
③市内相談機関相談員	
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①相談員のスキルアップに向けた行動の変化	現在、アンケート内容を検討中
②アンケート結果	
③市内相談機関相談員	
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①スキルが向上したと自己評価した相談員の割合 相談者の相談・行動満足度	現在、アンケート内容を検討中
②アンケート結果	
③市内相談機関相談員 市内相談機関に相談をした相談者	

具体的な目標：若年者に対する予防啓発の充実

取組名	AC DV防止のための情報提供及び啓発、若者による若者のための暴力未然防止活動
活動指標	実績
デートDV講演会等の実施校数、対象学生数	(デートDV講演会) 2014年度 12校 5,057人 2015年度 16校(17回)、4,103人 (若者による若者のためのデートDV講座) ※2015年度から実施 2015年度 1校、148人
短期指標(認識・知識)	短期評価(意識・知識)
①DVに対する学生、教職員の認識の変化	(よく理解できたと答えた人の割合) 2014年度 71%
②デートDV講演会等のアンケート結果	2015年度 76%
③講演会等を受講した学生	
中期指標(態度・行動)	中期評価(態度・行動)
①DVに対する学生の態度や行動の変化	(変化があった) 2016年度 26.1%
②事故やけがに関するアンケート調査結果	※アンケート設問：自分と結婚(交際)相手の関係や身近なカップルの状況について改めて考えた
③調査対象者に抽出された市民(学生)	
長期指標(状態・状況)	長期評価(外傷数等状況)
①20歳代のDV被害経験者の割合の減少	2010年度 13.1% 2015年度 10.9%
②男女共同参画に関する市民意識調査結果	
③調査対象者に抽出された市民(20歳代)	

取組名	AD DV防止のための情報提供及び啓発（10～20歳代の社会人向け）
活動指標	実績
啓発配布物の配布数	（市民のひろばへのDV防止啓発記事掲載） 毎年度 全世帯（約28万4千世帯） （カードサイズDVリーフレットの配布数） 2015年度 約31,000枚（設置箇所：約1,500箇所） ※医療機関や商業施設等へ設置増 （パープルリボンキャンペーン街頭啓発活動） 2015年度 1,000枚配布
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）
①DVに対する市民の認識の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査結果 女性に対する暴力に関する講演会のアンケート ③市民全般（10～20歳代）	○DVに対する認知度 （身体的暴力に対する認知度） 2016年度 98.0% ※アンケート設問：身体を傷つける可能性のある物でなく （精神的暴力に対する認知度） 2016年度 79.6% ※アンケート設問：交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する （性的暴力に対する認知度） 2016年度 85.7% ※アンケート設問：避妊に協力しない ○相談先の認知度 2013年度 16.1% 2016年度 20.8%
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①DVの認識による態度や行動の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査結果 ③調査対象者に抽出された市民（10～20歳代）	（変化があった） 2016年度 36.4% ※アンケート設問：自分と結婚（交際）相手の関係や身近なカップルの状況について改めて考えた

長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①DVは人権を侵害する行為であるという考えの浸透 ②男女共同参画に関する市民意識調査結果 ③調査対象者に抽出された市民（20歳代）	（DVは人権を侵害する行為であると答えた人） 2015年度 95.3%

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

--

〔対策委員会：自殺予防〕

目的：自殺者数の減少

具体的な目標：中高年（50～69歳）の自殺者数の減少

取組名	AE 自殺予防の普及啓発	
活動指標	実績	
・広報回数、配布（チラシ）枚数・メンタルヘルス講演会等の実施回数、参加人数	（広報回数） 2013年度 7回 2014年度 14回 2015年度 18回 （チラシ配布枚数） 2013年度 26,314枚 2014年度 18,922枚 2015年度 12,404枚 （メンタルヘルス講演会等） ・市民向け 2013年度 77回、2,713人 2014年度 91回、2,395人 2015年度 100回、2,724人 ・労働者向け 2014年度 7回 2015年度 5回	
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）	
①自殺の現状（ 鹿児島市の自殺者数/年 ）の認識度	（全年齢） 2013年度 8.2%	（参考：50～69歳） 2013年度 7.9%
②アンケート調査	2014年度 7.5%	2014年度 4.1%
③市民	2016年度 7.9%	2016年度 8.0%

中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①死にたい気持ちになった時、 相談する人の割合	(全年齢)	(参考：50～69歳)
②アンケート調査	2013年度 29.9%	2013年度 30.3%
③市民	2014年度 34.7%	2014年度 40.0%
	2016年度 36.2%	2016年度 23.1%
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①自殺者数・率（人口10万対）	(50～69歳)	(参考：全年齢)
②かごしま市の保健と福祉(人 口動態統計)	2013年 46人 28.1	2013年 111人 18.3
③50～69歳	2014年 34人 20.7	2014年 91人 15.0

取組名	AF 50～69歳の周囲の人への支援	
活動指標	実績	
ゲートキーパー養成講座の回 数・参加人数	2013年度 7回、 388人	
	2014年度 7回、 310人	
	2015年度 13回、 1,422人	
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）	
①ゲートキーパーの役割の認 識度	(全年齢)	(参考：50～69歳)
②アンケート調査	2016年度 全体 7.9%	2016年度 6.3%
③市民		
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）	
①ゲートキーパーが相談窓口 につなげた人数	(全年齢)	
②相談機関への調査・スキルア ップ講座のアンケート調査	2015年度 8人	
③相談機関・スキルアップ講座 受講者		
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）	
①自殺者数・率（人口10万対）	(50～69歳)	(参考：全年齢)
②かごしま市の保健と福祉(人 口動態統計)	2013年 46人 28.1	2013年 111人 18.3
③50～69歳	2014年 34人 20.7	2014年 91人 15.0

取組名	AG 相談しやすい場の設定	
活動指標	実績	
相談の開設数、相談者数 既存の相談の開設方法等を変更した数	(相談の開設数、相談者数) 2014年度 15機関 15,170人 2015年度 15機関 15,510人	
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (意識・知識)	
①相談場所の認識度	(全年齢)	(参考: 50~69歳)
②アンケート調査	2013年度 31.1%	2013年度 34.1%
③市民	2014年度 39.7%	2014年度 39.7%
	2016年度 21.2%	2016年度 21.9%
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)	
①相談窓口の相談者数	(全年齢)	(参考: 50~69歳)
②相談機関への調査	2014年度 15,170人	2014年度 2,578人
③相談機関	2015年度 15,510人	2015年度 2,459人
	(相談会(新規)) 2016年度 12人(延べ) 連携相談会内容・・・相談・ミニレクチャー実施 参加者 21人	
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)	
①自殺者数・率 (人口10万対)	(50~69歳)	(参考: 全年齢)
②かごしま市の保健と福祉(人口動態統計)	2013年 46人 28.1	2013年 111人 18.3
③50~69歳	2014年 34人 20.7	2014年 91人 15.0

取組名	AH 相談窓口の周知	
活動指標	実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口案内カードの配布枚数 ・広報の回数 	(相談窓口案内カード配布枚数) 2013年度 10,160枚 2014年度 13,650枚 2015年度 33,702枚 (相談窓口の広報) 2013年度 3回 2014年度 9回 2015年度 9回	
	※配布場所が医師会・薬剤師会等へ拡充したため増	
短期指標 (認識・知識)	短期評価 (意識・知識)	
①相談窓口案内カードの認識度 ②アンケート調査 ③市民	(全年齢) 2016年度 12.2%	(参考: 50~69歳) 2016年度 32.8
中期指標 (態度・行動)	中期評価 (態度・行動)	
①相談窓口の案内件数 ②相談機関への調査 ③相談機関	(全年齢) 2016年度 15件	
長期指標 (状態・状況)	長期評価 (外傷数等状況)	
①自殺者数・率 (人口10万対) ②かごしま市の保健と福祉(人口動態統計) ③50~69歳	(50~69歳) 2013年 46人 28.1 2014年 34人 20.7	(参考: 全年齢) 2013年 111人 18.3 2014年 91人 15.0

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

〔対策委員会：自殺予防〕

取組名「AE 自殺予防の普及啓発」について

短期指標—①「自殺の現状の認識度」を、①「自殺の現状（鹿児島市の自殺者数/年）の認識度」とすることで、より具体的で分かりやすい指標とするため。

中期指標—①「死にたい気持ちになった時、相談する人の数」を、①「死にたい気持ちになった時、相談する人の割合」とすることで、アンケート回収数に影響されないより適切な指標とするため。

取組名「AF 50～69歳の周囲の人への支援」について

中期指標—②「相談機関への調査」③「相談機関」を、②「相談機関への調査・スキルアップ講座のアンケート調査」③「相談機関・スキルアップ講座受講者」とすることで、対象者から確実な情報を得て、指標とするため。

〔対策委員会：防災・災害対策〕

目的：地域防災力の向上

具体的な目標：桜島地区における避難体制の再構築

取組名	AI 住民の避難状況の把握
活動指標	実績
・住民一覧表の更新回数	2014年度 2回 [モデル地区：高免町] 2015年度 1回 [モデル地区：高免町]
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）
①事前に避難する場合、家族カードの提出が必要であることの認知度 ②アンケート調査 ③町内会住民	(事故やけがに関するアンケート調査) 2014年度 66.6% [桜島全島] 2016年度 80.6% [桜島全島] (独自調査) 2015年度 100% [モデル地区：高免町]
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①訓練で事前避難する場合、家族カードの提出率 ②住民一覧表、聞き取り ③消防分団	2016年度 島内避難訓練 100.0% 【3地区：有村地区ほか】
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①訓練における住民の避難状況の把握率（未確認者数が減少したか） ②住民一覧表、聞き取り ③消防分団	2016年度 島内避難訓練 100.0% 【3地区：有村地区ほか】

取組名	AJ 避難行動要支援者の避難体制確立
活動指標	実績
・町内会等の打合せの回数（参加者、議題）	（町内会等の打合せ回数） 2014年度 4回 [モデル地区：高免町]
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）
①自力避難できない人の把握率 ②住民一覧表 ③町内会	2016年度 92%（住民の把握率） [桜島全島]
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①要支援者の支援者の決定率 ②住民一覧表 ③町内会	2016年度 39.5% [桜島全島]
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①訓練における要支援者の参加率（事前避難含む） ②住民一覧表 ③消防分団	2016年度 島内避難訓練 100.0% 【3地区：有村地区ほか】

取組名	AK 避難訓練の充実強化
活動指標	実績
・避難手順書等の配布数	2014年度 70枚 [モデル地区：高免町] 2015年度 約2,000枚 [桜島全島]
短期指標（認識・知識）	短期評価（意識・知識）
①避難手順書の認知度 ②アンケート調査 ③町内会住民	(事故やけがに関するアンケート調査) 2016年度 71.0% [桜島全島]
中期指標（態度・行動）	中期評価（態度・行動）
①避難手順書の家ですぐに確認できる割合 ②アンケート調査 ③町内会住民	(事故やけがに関するアンケート調査) 2016年度 64.5% [桜島全島]
長期指標（状態・状況）	長期評価（外傷数等状況）
①避難手順書に従って訓練に参加した人の割合（事前避難含む） ②家族カード ③町内会住民	2016年度 島内避難訓練 100.0% 【3地区：有村地区ほか】

指標に変更がある場合は、理由を記入してください。

指標の変更理由

〔対策委員会：防災・災害対策〕

※ 活動指標や短期指標の文言整理等を行うもの。

- ・ 取組名「AJ 避難行動要支援者の避難体制確立」について、活動指標—「町内会の打合せの回数（参加者、議題）」を「町内会等の打合せの回数（参加者、議題）」に、また、取組名「AK 避難訓練の充実強化」について、活動指標—「避難手順書の配布物」を「避難手順書等の配布物」にすることで、取組に沿った実績を計上しやすくするもの。
- ・ 短期指標—①「避難先、避難方法の認知度」を①「避難手順書の認知度」に、また、中期指標—①「避難手順書の家での掲示率」を①「避難手順書の家ですぐに確認できる割合」にすることで、より具体的で分かりやすい指標とするもの。(実施したアンケート調査と表現を合わせるもの)
- ・ 長期指標—②「アンケート調査」を、②「家族カード」とすることで、実際の訓練での活動に沿った指標とするもの。

指標7 ネットワーク・交流

7-1. 過去1年間、次のネットワーク等に参加・貢献しましたか？

- a) 国際的なSCネットワークへの参加・貢献 → はい いいえ
- b) 国内のSCネットワークへの参加・貢献 → はい いいえ
- c) アジア地域のSCに関する行事等・貢献 → はい いいえ

※「はい」と答えた場合、その内容について概要を記載してください。

a) 国際ネットワーク

2016年12月11日 台湾台南市南区金華里住民等との意見交換会を開催（鹿児島県鹿児島市開催）

b) 国内ネットワーク（視察受け入れ等も含む）

2016年1月30日 第4回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（鹿児島県鹿児島市開催）

2016年2月20日 滋賀県甲賀市認証式典に参加

2016年8月9～10日 大阪府泉大津市現地審査に参加

2016年8月11日 J I S C セーフコミュニティ研修会に参加（大阪府泉大津市）

2016年10月29日 大阪府泉大津市認証式典に参加

c) アジア地域のSCに関する行事等・貢献

2016年12月11日 台湾台南市南区金華里住民等との意見交換会を開催（鹿児島県鹿児島市開催）
（視察対応）

2016年2月2日 鹿児島県薩摩川内市（防災安全課）

2016年4月15日 埼玉県川口市議会

7-2. 過去1年間、住民に対して行ったフィードバックについて記載してください

例) 取組の進捗状況、成果等に関する報告など

(1) セーフコミュニティ推進フォーラムの開催（パネル展同時開催）

(第1回)

日時：2016年7月12日

場所：かごしま市民福祉プラザ5階 大会議室

参加者：地域組織の代表や小中学校の関係者など約220人

主な内容：セーフコミュニティに関する講話やモデル地区における取組の全市展開に向けた
意見交換

(第2回)

日時：2017年1月27日

場所：サンエールかごしま 講堂（ホール）

参加者：地域組織の代表や小中学校の関係者、市民など約220人

主な内容：活動報告（重点7分野）、SC成果紹介

(2) 第12回安心安全まちづくり市民大会における活動発表

日時：2016年11月12日

場所：宝山ホール（県文化センター）

参加者：市民約1,300人

主な内容：セーフコミュニティモデル地区（交通安全分野）における活動発表

(3) その他出張講座等

- ・ 11/22 市政出前トーク（紫原一丁目お達者クラブ）
- ・ 12/22 市政出前講座（鹿児島大学）
- ・ 1/7 安心安全アカデミーマスターコース閉講式
- ・ 1/11 市政出前トーク（野頭お達者クラブ）
- ・ 1/17 安心安全アカデミー基礎コース閉講式

(4) モデル地区等の取組紹介（個別説明）

既存の会議等や地域組織に出向き、モデル地区等の取組紹介を行った。

■交通安全（地域コミュニティ協議会または地域安心安全ネットワーク会議）

- ・ 4校区（鴨池、武岡、星峯東、一倉）

■子どもの安全（幼稚園、保育所、子育てサロン、母親クラブ）

- ・ 2団体（宮校区子育てサロン、ひよこ会（母親クラブ））

■高齢者の安全（地域コミュニティ協議会、町内会）

- ・ 1校区（星峯東）
- ・ 1町内会（緑ヶ丘）

■防災・災害対策（桜島地域の町内会）

- ・ 5/23 桜島地区、地区別防災研修会
- ・ 6/15 東桜島支所管内町内会長等説明会（住民一覧表調査）
- ・ 6/24 桜島支所管内町内会等説明会（住民一覧表調査）
- ・ 6/30～7/31個別町内会説明会（随時6回）（住民一覧表調査）
- ・ 8/25 調査速報報告会（桜島支所管内町内会長等）
- ・ 8/28 調査速報報告会（東桜島支所管内町内会長等）
- ・ 10/26 島内避難訓練説明会
- ・ 12/7 桜島火山爆発総合防災訓練説明会

(5) 広報ポスター・パンフレット等作成

- ① 全体版広報ポスター B3片面 730枚

掲示場所

庁内窓口、小・中・高等学校、保育園・幼稚園、母親クラブ、公民館、地域福祉館、地域コミュニティ協議会、安心安全ネットワーク会議、関係団体など

②かわら版「みんなでつくる セーフコミュニティかごしま」

計6回作成し、市ホームページ及び庁内掲示板に掲載し、取組等の周知・広報を行った。

第8回 7分野の取組①「高齢者の安全」

第9回 7分野の取組②「子どもの安全」

第10回 7分野の取組③「学校の安全」

第11回 7分野の取組④「交通安全」

第12回 7分野の取組⑤「DV防止」

第13回 7分野の取組⑥「防災・災害対策」

③広報紙等

「市民のひろば」 記事掲載 11回

2月 交通安全

3月 セーフコミュニティ国際認証

4月 DV防止

5月 交通安全

6月 自殺予防

7月 高齢者の安全

8月 子どもの安全

9月 自殺予防

11月 防災・災害対策

12月 市政この1年

1月 第2回セーフコミュニティ推進フォーラム、事故やけがに関するアンケート結果

「市民健康まつりチラシ」 記事掲載 1回

「よかセンターニュース」 記事掲載 1回

「健康ニュース」 記事掲載 2回

(6) 市政広報番組 1回

番組名 「市民のひろば」 (MBC)

放送日 平成29年1月22日 (日) 10:30~11:00

タイトル 「安心して安全に暮らせるまち ～セーフコミュニティを進めています～」

(7) セーフコミュニティ紹介コーナー設置

展示場所 東別館1階 (2016年2月29日～)

展示物 紹介パネル、合意書、認証式におけるセーフコミュニティ推進自治体からのお祝い品

- (8) ヒヤリハットマップ展示
展示場所 FMかごしま (2016年1月30日～2016年3月4日)
サンエールかごしま (2016年3月23日～)
- (9) 「セーフコミュニティロゴ」の活用
セーフコミュニティロゴマーク使用取扱要領を定め、市の機関に限らず、セーフコミュニティに取り組む地域組織も使用可能とし、セーフコミュニティの周知・広報に活用した。
- (10) 横看板
本館正面北出入口に掲示 (～2016年7月31日)
- (11) 市ホームページリニューアル
必要な情報の検索がしやすいように全体的なレイアウトの変更 (項目や文言の整理) を行った。

8. その他

8-1. この1年間でもっとも積極的に取組んだ活動は何ですか。取組みの経緯・経過を含めて説明してください。

- (1) 取組の全市的な展開 (DV防止、自殺予防分野は、当初から全市を対象)
セーフコミュニティの取組の全市的な展開を図るため、平成28年度から新たに年2回、「セーフコミュニティ推進フォーラム」を実施するとともに、地域組織等を個別に訪問し、これまでモデル地区等で行ってきた取組を紹介するなど、地域住民が主体となった取組の推進を図った。
■分野別対策委員会における取組の全市展開の進捗状況 (添付8参照)
- (2) 事故やけがに関するアンケート調査
事故やけがに関するアンケート調査を実施し、評価指標に基づき、取組の評価・検討を行った。
- (3) 医療データの収集
市内3病院へ協力を依頼し、事故やけがの治療に係る医療費等のデータ収集を開始した。
今後は、セーフコミュニティによる医療費縮減等の効果を積算するための基礎データとして活用できるよう、外傷サーベイランス委員会にて協議・検討を進めていく。

8-2. 最後に、SC活動およびSCネットワークについて自由にお書きください。

添付資料

次の資料が添付されていることを確認したうえで提出してください。

※ 添付したものは「□」を塗りつぶしてください。

- 添付1：推進協議会、外傷サーベイランス委員会メンバーのリスト
- 添付2：推進協議会、外傷サーベイランス委員会の「次第」「出席者リスト」「議事録」
- 添付3：対策委員会メンバーのリスト
- 添付4：各対策委員会の「次第」「出席者リスト」「議事録」
：アセスメントに関する資料
(本報告書の中に記載 指標6 P33～P75)
- 添付5：本市におけるセーフコミュニティ（事故やけがの予防）の取組一覧（年齢層別・環境別）
- 添付6：セーフコミュニティの取組写真等
- 添付7：市民へのフィードバックに関する資料
- 添付8：分野別対策委員会における取組の全市展開の進捗状況
- 添付9：セーフコミュニティ スケジュール

本レポートは、「ワードファイル」で、認証月の末日までに 支援センターに提出してください。
添付書類については、どの項目に対する添付資料かわかるようにしてご提出ください。